

海域管理計画モニタリング評価シート(案)

1. 調査対象に係る基本事項

構成要素	4. 海棲哺乳類
対応方針 または 保護管理 の考え方	生態や来遊頭数に関する調査・研究、及び混獲頭数の把握等に基づき、漁業法等による捕獲制限のもとで管理を行う。

2. 調査対象

海氷	水温・水質・クロロフィルa・プランクトンなど	生物相	有害物質
サケ類	スケソウダラ	○ トド	アザラシ
海鳥類	海ワシ類	利用の適正化	

3. 調査・モニタリング表

調査名称等	主な内容	06	07	08	09	10
20.トド来遊及び漁業被害状況の調査 (羅臼漁協 (調査依頼機関:北海道))	トドの来遊及び漁業被害状況の調査	○	○	○	○	○
21.トド資源調査 (水産総合研究センター、北水研、水試、北大)	日本沿岸への来遊頭数、捕獲個体の性別、年齢、体長、体重、成熟、胃・腸内容物などの調査		○	○	○	

4. 評価

評 価	<input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 概ね維持 <input type="checkbox"/> 減少	日本に来遊するトドが属するアジア・日本集団の個体数は大幅に増加している。
	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 改善継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 新規	引き続き、来遊状況、被害状況等の把握に努める。 回遊経路についても調査を進める。
今後の方向性		
備 考		

5. 調査、モニタリングの概要 1/2

調査・モニタリング名	20.トド来遊及び漁業被害状況の調査
主な内容	トドの来遊及び漁業被害状況の調査
対象地域	全道
頻度	毎年
調査主体	遺産地域は羅臼漁協(調査依頼機関:北海道)
調査結果概要	全道の状況を把握する調査であり、漁協個別のデータの公表はしていない。 調査の概要は、(独)水産総合研究センター北海道区水産研究所等が実施して公表している、トド資源調査に漁業被害としてまとめられている。

5. 調査、モニタリングの概要 2/2

調査・モニタリング名	21.トド資源調査				
主な内容	日本沿岸への来遊頭数、捕獲個体の性別、年齢、体長、体重、成熟、胃・腸内容物などの調査				
対象地域	全道				
頻度	11月上旬～5月下旬				
調査主体	(独)水産総合研究センター北海道区水産研究所・釧路水産試験場・稚内水産試験場・中央水産試験場・北海道大学(調査依頼機関:水産庁)				
調査結果概要	【航空機からの目視調査】				
		H19	H20	H21	
	日本海沿岸	65群111頭	65群105頭	81群101頭	
	根室海峡	22群129頭	-	-	
	【航空機目視調査による来遊数推定】				
	[平成19年度]				
	H16～17年度に実施した航空機目視調査に基づき、北海道に冬期来遊するトドの個体数を6,767頭(3,347頭-15,006頭、95%信頼区間)と推定した。				
	[平成19年度]				
	過去5年間の結果をもとに、北海道に冬期来遊するトドの個体数を次のように推定した。				
	・ 日本海 5,800頭(4,377-7,686頭、95%信頼区間)				
	・ 根室海峡 平均92.6頭(53-123頭)				
	【上陸場の観察】				
		H19	H20	H21	
	弁天島	152頭	83頭	80頭	
	雄冬岬	153頭	99頭	214頭	
神威岬	4頭				
磯谷	102頭	72頭	70頭		
【来遊個体の特性】					
・ 道北及び道東ではメスが多いのに対し、石狩湾南部ではオスが多い。					
・ 雌雄共に性成熟に達する年齢(メス:4.3歳、オス:3.6歳)の個体が比較的多い					
【系群解析】					
・ 北海道来遊集団は、アジア集団の中でも特にオホーツク(OKH)及び千島列島(KUR)の集団と遺伝的に近縁であると考えられる。					
【食性調査】					
[羅臼]					
・ スケトウダラ、マダラなど…90年代に比べ餌生物の多様性が高い					
[斜里]					
・ ホッケ、イカナゴ属など…90年代主要であったタラ科魚類は出現していない					
	羅臼	積丹	小樽・雄冬	利尻・礼文	青森・松前・江差
標本数	7	4	3	9	3
胃内容	スケトウダラ マダラ ドスイカ	ホッケ イカナゴ属	ナガツカ タコ類 ニシン	イカナゴ類 タコ類 ホッケ ホテイウオ	タラ科魚類 タコ類
備考	90年代に比べ餌生物の多様性が高い	90年代主要であったタラ科魚類出現せず	季節的に多量に来遊する魚種を利用	90年代主要であったスケトウダラが出現せず	

【漁業被害】

・ H21は13億円超(北海道庁調べ)…前年度よりやや減少

